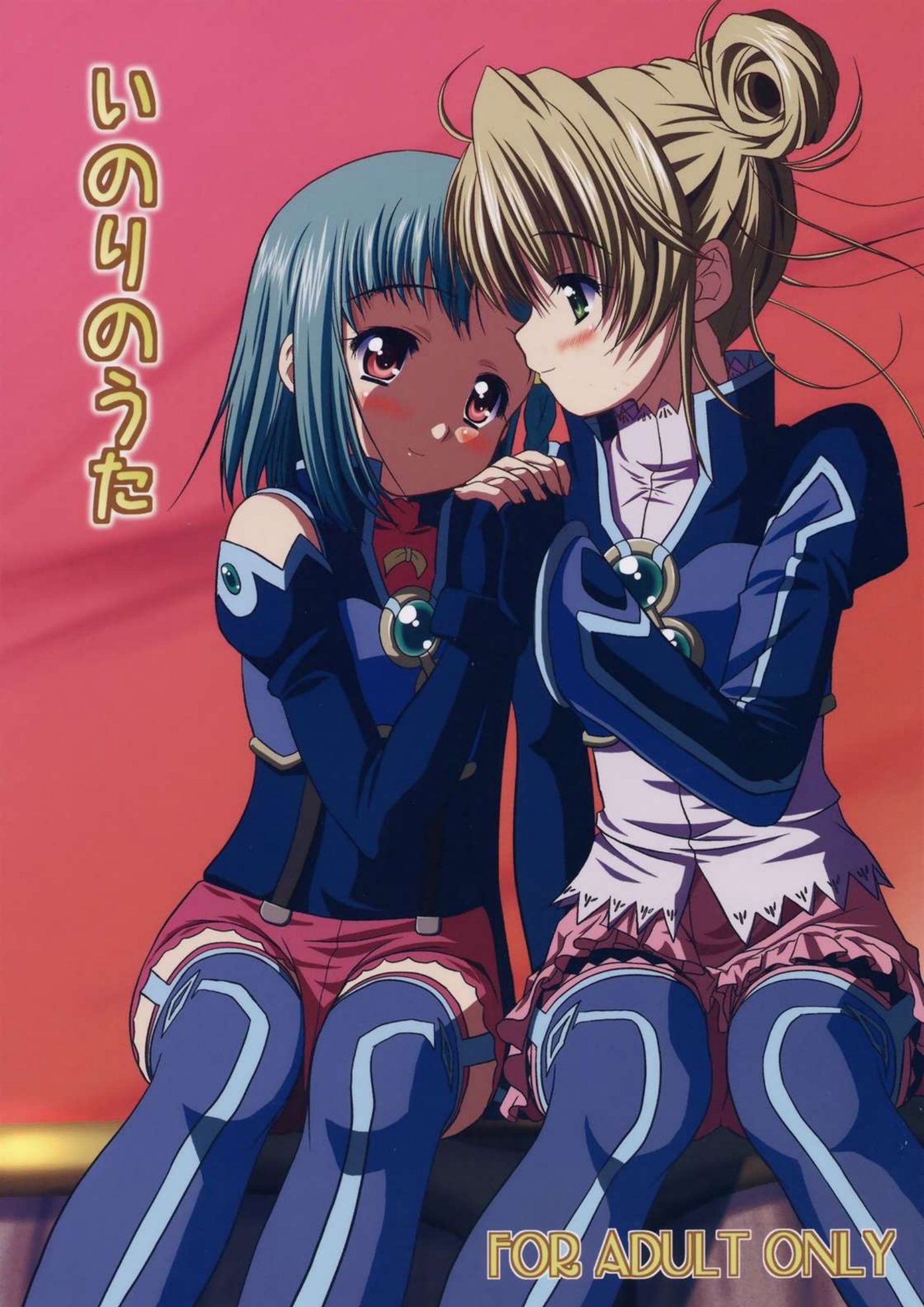


いのりのうた



FOR ADULT ONLY

~inori no uta~

空へ舞い上がれ 祈りの詩
ここに守るものがあるよ
未来は変えられる 孤独じゃないわ
哀づく願いを 信じて



道無き道を、どうか照らして…

■どうもはじめまして、こんにちは～
chisatoと申します。

お買いあげ頂きありがとうございます！

いつもちょっとマイナーなものばかりに手を出しております（笑
さて、今回は「シムーン」です。

ぶっちゃけ第1話を見たときは「う～ん、特に…」と思ったのですが、
なんとなく2話、3話と見続けるうちにこの世界にどんどんと
はまって行ってしまっ（笑

特に主人公のアーエルさん。最近のアニメでこれほどまでに
あつくて可愛い主人公があったらどうか？いやない（笑

それ以外にも個性豊かなコールテンペストの面々！

肝心の本編ストーリーはこのままのりくらりと終わるのかなと思いきや、
突然の急展開だったり、もう目が離せない状況に！

友人からは散々マイナーだと言われてますが、いいんですよ、
本人が好きなんだから何だって（笑

■ということで、今回はアーエル×リモネのお話です。

実は最初はアーエル×ネヴィリルにしようと思ったのですが、

引きこもり状態の上にキャラ的にネヴィリルが理解できず、

どうしようかと考えていた時に、ちょうどリモネとアーエルの良い話が
本編でやっていたので、この話を膨らませてみよう、と考えました。

やはりこの二人がベストカップルだと思います♪

今回で本の制作はようやく2冊目となりましたが、

少しでも楽しんで頂ければ幸いです。

技術はなくとも、愛はこもってると思います（笑

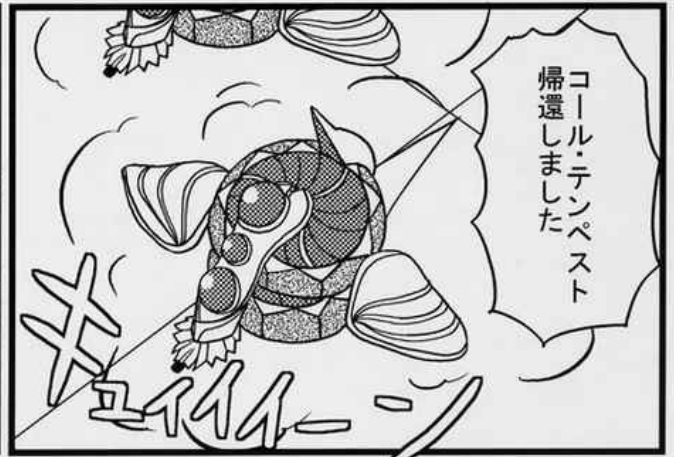
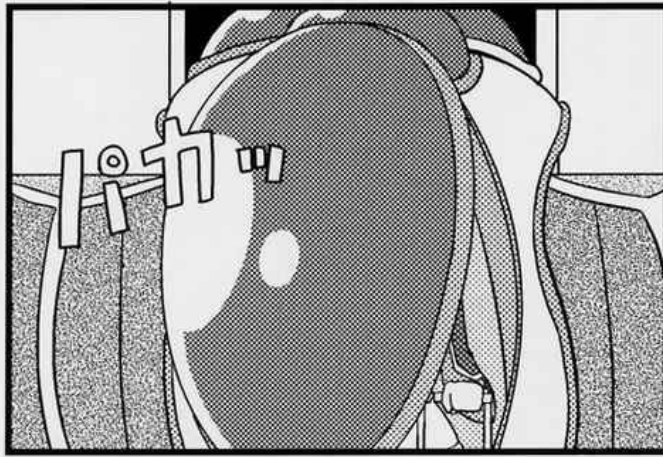
それではまた最後にお会いしましょう～

※この本の舞台は本編第3話～第6話

あたりの話です。

ちょっと古いですが、その時の気分になって
お読みいただくと分かりやすいと思います。



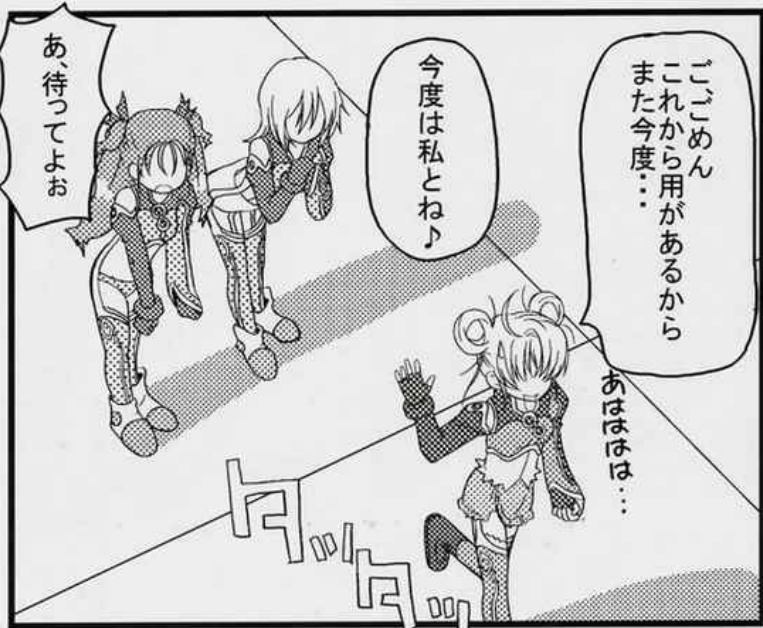






べ、別に…
気にしてなんて…

アーエル行っちゃったけど
いいの？



あ、待ってよお

今度は私とね♪

ごごめん
これから用があるから
また今度…

あははは…

ドゥドゥドゥ



ギョ



フロエ、
そんな事
言ってるよ…

ほら、
あれ…

なんかさ、
ネヴィリルがいなくても
アーエルがいれば
今のコール・テンペストは
充分だよ



たぶんね…
何度説得しても
無駄だと思うけど

アーエル…



そ、そういうばアーエルは
またネヴィリルの所へ
行ったのかな？

おははは…

おーこわっ！
パライエツタはネヴィリル
一筋だもんねえ

ネヴィリル!

優秀…特別…
だから私はここにいる。ここで祈っている。
それが私のここでの存在理由

ネヴィリル!

あんたもこのままで
いいと思ってるのか!



どうしてネヴィリルなの?
私じゃ…
私じゃダメなの?

だから、アーエルが望むなら
私なんだからするよ…



このわからずや!

私…
足手まといに
なってる?



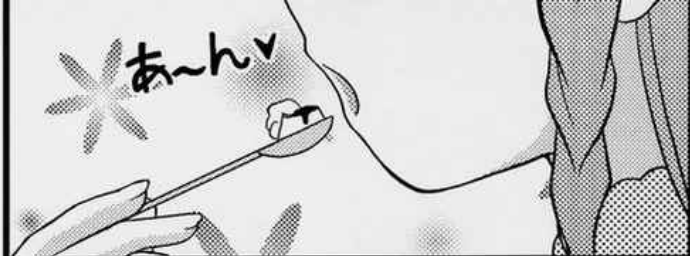
アーエル言ったよね?
自分で考えるって…

ま、たく
モー!
ネヴィリルめ!!



私にとって、
アーエルって何…

どうしてアーエルの事だけ
こんなに気になるの…
この気持ちは何?
どうしたらいいの?



まったくネヴィルのやつ、
なんだってあんなに
頑固なんだ？

ほま...

まぐ...



アムリアの事は私が入る前
だからよく分からないけど...
大切な人を失った悲しみは
なかなか消えないと思う...
アーエルはそういう経験とか...
大切な人とかはいないの？



どうしてそんな
困った顔するの...

聞いて、
いけなかった？



ううん、いないこともないよ

でも戦争ってさ、
その大切なものを守るって
こともあるけど、
それを失ったらはい、終わり。
そんな簡単なものじゃないでしょ？



それに敵はこの国を乗っ取ろうと
勝手に戦いを仕掛けてきているんだ。
なら私たちがシューマンに乗って
戦わないと！
そのためのシューマンシヴラだろ！
正義の味方だろ！

アーエル、そんな事ばかり
言っていると、またパライエッタに
怒られるよ...

おれ、おれ...



ううん。
みんな良い人だし。
私にとつては
みんなが大切な仲間。
誰も死んでほしくない。
だからみんなは
私を守る

それに特にリモネとは
色々あつたしね…
ちよつと特別なかな

アーエル…

大丈夫。リモネは私が
守つてみせる。
絶対に死なせないから
だからリモネも自分が
やりたいようにやりな

うん…

ア…

じゃ私部屋に戻るね。
また明日

ドキ
ドキ

いつもそう…
どうしてアーエルって
いつもそうなの…
誰にでもそうなの？

大切な人…
私の大切な人は…

そう…
アーエル…だよ

アーエルは
何て言うだろう…
私の事変だつて
思うかな…

はいはい、
今開けるから
待ってて…

私がどう
思われていても…

アーエルには
隠したくない…
もう隠せない…

言わなきゃ…
私の答えを…

コンコンッ

アーエル、
こんな時間にこめん…

あれ、リモネじゃない。
どうしたの？

ガキャフ

あの…
少し話したい
ことが…

いいよ。
誰もいないから入って

う、うん…



で、話って何？

実は…
アーエルにちゃんとお礼
が言いたくて…



夕食のデザートはプリン
あげた事？
あんなのいいって。
他のものでお腹いっぱい
になっちゃって

ありがと…
ち、違っつてば！



あの時…
礁国の兵士に捕まった時、
アーエル一人で色々やってくれて…

ううん、流石にリモネに
あれはやらせられないよ

私、何がしたいか
分からなくなつて…
アーエル言ってくれたよね
「自分で考える」つて…

私、今まで人にそんな事
言われたことなかった



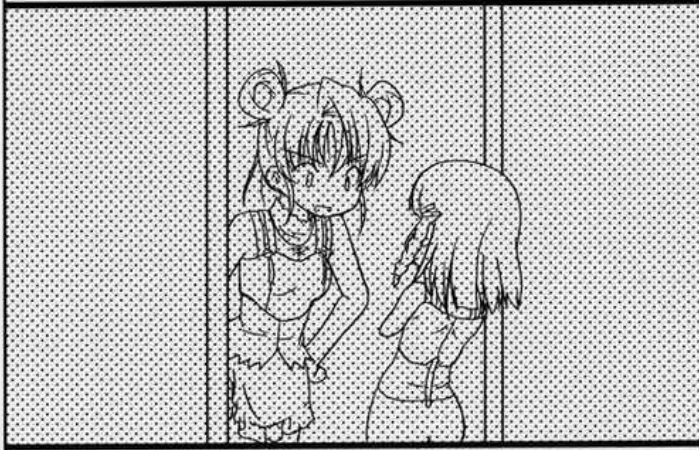
最年少、優等生、
それだけでずっと他人からは妬まれて、
でも誉められたくて頑張つて、
そこに迷いなんてなかったと思う。
何だつて出来ると思つてた…

簡単なリ・マージョンも出来ない年上の
のシウユラを蔑んですらいた…

そんな気持ちのせいで…
私が出来ると思つてやった
リ・マージョンの事故で
パルを死なせてしまつて…
怖くなつて…

自分の意思のせいで
こんな辛い思いをするならつて、
ずっと逃げてきた…

その時から私は人に言われたこと
だけやってきた…
そうすれば誰も傷つく事も…
だから私あの時もアーエルに何か
言つて欲しかった…
命令して欲しかった…
そうすれば安心できる
と思つて…



でも期待した答えは
もらえなかった…
でも分かったの…
何の偏見もなく、同じ仲間として
見てもらえたのが
何より嬉しかった…
それは…
いい加減な答えじゃないって…
私のことを…

私がんばつて考えたの！
どうすればいいか分からないけど
一生懸命に考えたの！
そして思い出したの！
私のやりたかったこと！
誰よりも完璧なリ・マージョン！
そしてあの時から感じる
この気持ちは何かつて！

わたし、私、
アーエルが好き！
大好き！



思い出したけど…
アーエルの事ばかり考えて…
リ・マージョンの事も考えられなくて…
これが何なのか分からなくて…

この気持ちが「好き」
つて事に気付いたら
全然言い出せなくて…
言うのが怖くて…
こんな気持ちが
また人を…
アーエルを傷つけたら
どうしようつて…

リモネ…



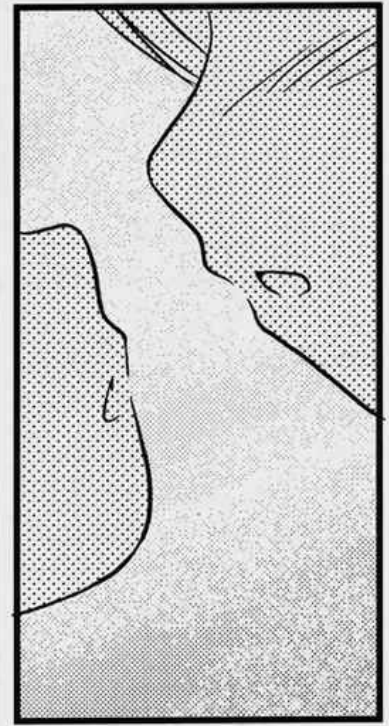
アーエル…

人に言われた事だけ
やってるなんてつまらないでしょ？
リモネにはリモネの意思がある。

当時の事は私には
よく分からないけど、
やってしまった事を忘れるのは
よくない。
でもいつまでも悔やんでいても
しかたないでしょ？

それにその気持ちは…
誰かにそうするように
言われたんじゃないかと、
リモネの意思なんでしょ？
そのまま…
リモネのままでいようよ。
そういうリモネ、私は好きだよ





ぎゅっ...

アーエルに好きって言った時、涙が止まらなかつたの... この気持ちがいっぱい溢れて... こんな事言つてアーエルに突き飛ばされたらどうしようって... 二度と会えなくなるんじゃないかって...

でもアーエルだけには本当の私を見て欲しかった... 一緒にいたかったから... 今までの私じゃこんな風にアーエルに甘えられないもん... 私アーエルを好きになってもいいんだよね? 大丈夫だよ?

アーエルは私よりネヴィリルの方がいいのにね...

何言ってるんだらう私...

リモネってき、私たちより幼いのにいつも私たちより冷静で大人びてて、生意気で... 正直へんなやつだと思つていたけど... 強がつてたんだよね... 気負いすぎてたんだね... 素直になれなかつただけなんだよね... 素直な方がずっと可愛いのに

大丈夫。好きになられて傷つく人なんていないよ



だってまだちいさっ、
あっ、あっ

ぽん

ぽん



あ、アーエル…
ちよと…恥ずかしい…

何言ってるの。
私たちがまだ女の子同士でしょ？

ぽん

ぽん



あ、

あっ…
んん…
アーエル…

ぽん

だ…

んん

ぽん



あっ
アーエル…

ちゅん



あ、これね、
ちよと待ってて

ねえ、
アーエルのも見たい



ごめん、痛かった？

ううん…
不思議な気分…
でも嫌じゃない…





ううん、
なんかドキドキ
しちやって…
自分で触る時とは
やっぱ違うね

その…
私はじめ
だからっ

ごめん、
痛かった？

ちゅっ

んっ

あん…

ぴゅっ



あっ

<にゅ



ねえ、リモネは
一人でエッチな事
したことある？

あつ、ええっ？
…その…
たまに…

すめっ

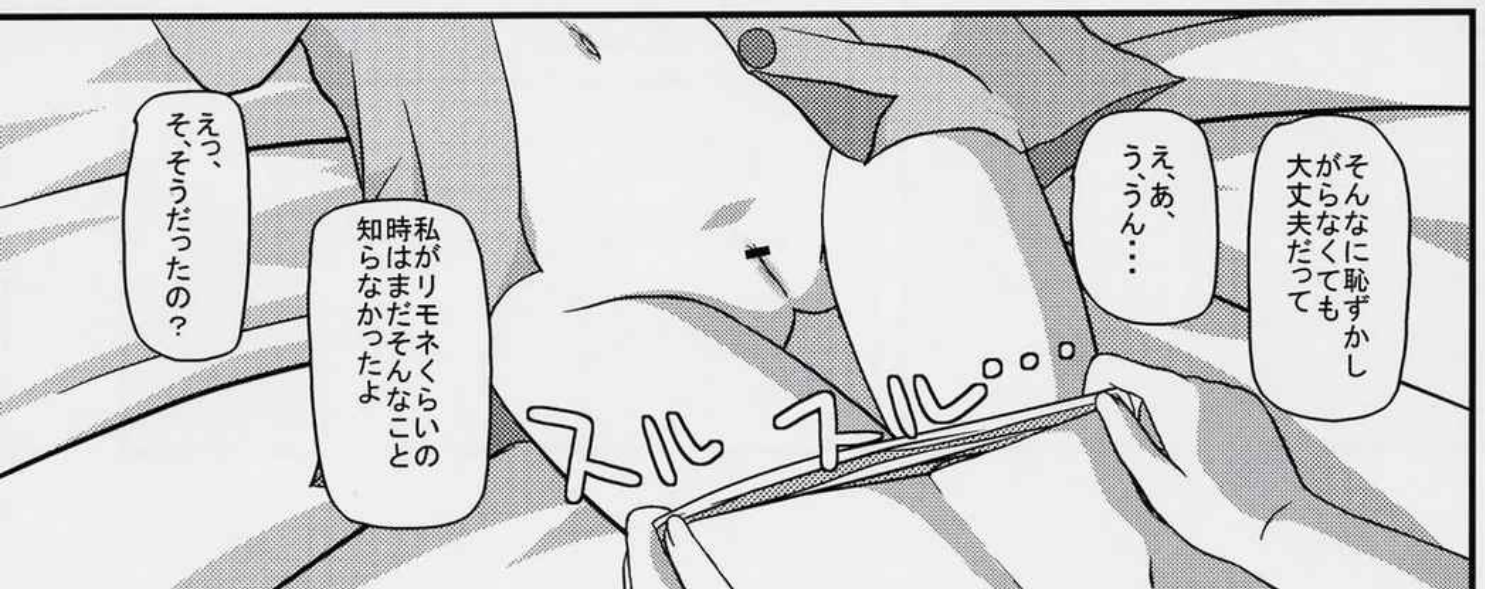
びゅっ



そ、あつ…
アーエル、
そっちは…

でも…

これ邪魔
でしょ？



そんなに恥ずかし
がらなくても
大丈夫だって

え、あ、
ううん…

私がリモネくらい
の時はまだそんなこと
知らなかったよ

えっ、
そ、そうだったの？

スル スル



流石リモネ、
色々知ってるね

リモネは
エッチな本も
読むの？

ほ本で
読んだことあるの…

ううん…
そういう場面が
たまにあつて…



え、あつ…ダメっ…
そ、そこは…

どうして？
大丈夫だって

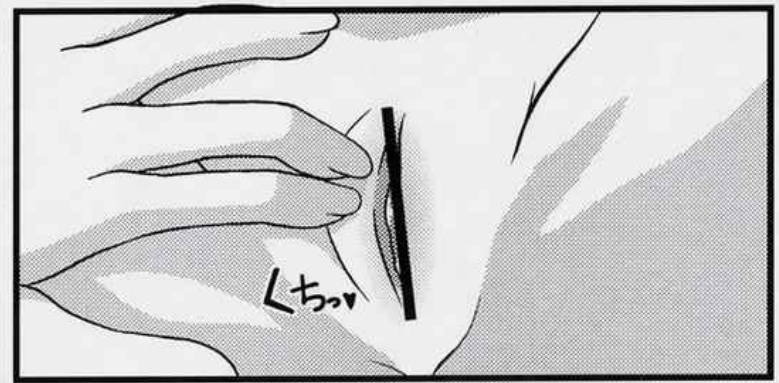
え、だ、だって…



ふーん、
本って凄いなだね。
私も読んでみようかな

じゃあこつちも
気持ちいいって事
知ってるよね

え…



くちっ



リモネって本当に可愛いよね

それにシャワー浴びたばかりでしょ？
石鹸の香りがするよ

じゃあどうしてそんなに気持ちよさそうな声出すの？
本当は知ってるんでしょ？



あ…ああっ
だダメっ

そこ汚いよお

んっ

びっ



それはダメ。それは一番大切な人のためにとつておかなきゃ



ねえ、アーエル…
アーエルって誰とでもこういう事するの…？

ううん。好きじゃない人とこんなコト出来ないよ。…それに実はリモネが初めてだったり。リモネの色々な事を知りたくなっちゃって

アーエル…
嬉しい…

あ、アーエル…
ここに指…
入れて欲しい…



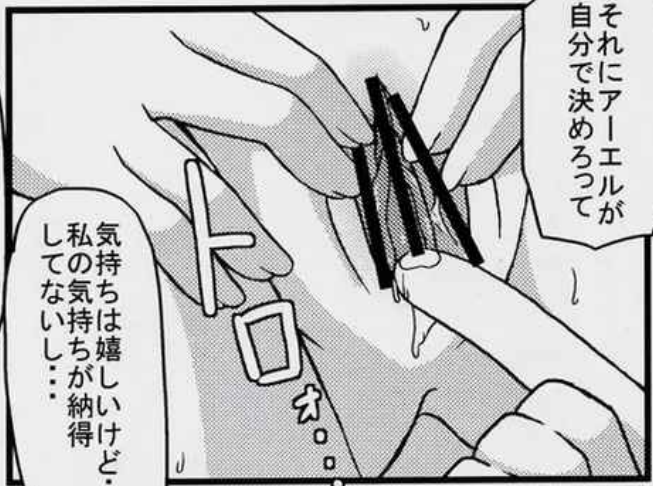
ううん、私アーエルがいい…
アーエルじゃなきゃイヤ…

最初はアーエルって決めたんだもん！



だから…ね

リモネにはまだちょっと
早い気もする。
痛いのはイヤだよ



それにアーエルが
自分で決めるって

気持ち嬉しいけど…
私の気持ちが納得
してないし…



うっ…
私の意思なんだから…
痛くても…痛くても…
いいのに…



そのかわりに
痛くならないように
もつと気持ちよくさせて
あげるから

え…

大丈夫、
リモネは力
抜いてて



えごめん
泣かせるつもりは…

ううん…
なんか嬉しいの…
望みどおりにならない
のはちょっと残念だけど…

アーエルが私のことを
思ってくれて…
心配してくれて…
私アーエルを好きに
なつてよかった…

アーエル
大好きだよ…

どうリモネ。
気持ちよかった？

あ、イットのは
初めてだった？

はあ、はあ...
えっ...

す、凄く恥ずかしいのに...
アーエルが優しくして
くれるから...

はあ

気持ちよくて...
声も...出ちゃって...
こんなの本にも
書いてなかった...

だってリモネ
凄く可愛かったんだもん

もじ
もじ...

あ、アーエルだけに
なんだから...

リモネ見てたら私も
したくなっちゃった

はあ

え...

アーエル...

今度は私がアーエルに
したい...
ううん、させて...
アーエルを全部見たい

リモネ...



アーエル…
好き…
大好き…

リモネ…



んっ

うんっ

んっ

んっ



これ、
脱がせてくれる？

うん



んっ

ちゅっ



ねえ見て、
リモネのせいで、
こんなになっちゃった…
私っておかしいかな？

ううん、
私だつて…
アーエルのすごい綺麗。
私も舐めていい？

え、ううん
リモネが嫌
じゃなければ…

んっ

んっ

んっ

んっ



うん…

アーエル…
私アーエルに負けないくらい
アウリーガになって、
絶対誰よりも完璧なり・マジョン
をやってみせる

それにね、
アーエルの事
もっと好きになっちゃった

アーエル、
すごく可愛かったよ

えっ…

かな～

ふっ…

あっはははっ、
なんか私らしくないね。
でもさ、人を好きになるって
いいことかもしれない

うん。
なんか今までとは違った
感じで見ることが出来る…
だから私、ずっとアーエルと
一緒にいたいって思う…

なんか私も、
リモノと一緒にいたい
かも

えっ…

まだよく
わかんないや

ふふふっ…ねえ、
ドミノアラが帰ってくるまでは
一緒でもいい？

ああ。
それに寂しくなったら
いつでも来ていいよ。
お菓子いっぱい用意
して待ってるから

うん。
アーエル、大好き



でも、アーエルに感じるこの特別な気持ち。

さあ行こう。
私たちの空へ！

今まで感じたことがなかった、心に芽生えた不思議なこの気持ち……私、本当にアーエルの事、好きなんだと思う……



今は一人なんかじゃない。アーエルがいる。だから私はやってみせる。完璧なり、マジジョンを。そしていつかアーエルと……

……私、アーエルの特別な人になれるように頑張るから

うん

まだ私たちは戦争中で、これから何が起るのか、明日もどうなるか分からないけど、アーエルと一緒にならどんな事でも越えていける、変えていける、そんな気がする……



だから私はこれからもここに居るから……ここで祈り続けるから……ずっとアーエルの側に居るから……私のことも見ていてね……

あなたと生きてみたい。……もちろん、私の意思で



それぞれのシアワセカタチを、見失わないように

■告白から始まる恋もある…

今回はそんな風に、仲間を意識しながらも、特定の人には感心を持たないアーエルが、リモネの告白により次第に気持ちが変わっていく、そんな話でした。実はアーエルとリモネの「好き」という意味は、微妙に違ってます。リモネにとってはアーエルは特別な人という意味ですが、アーエルにとってリモネは大勢の中の一人という意味。しかしリモネの真剣な告白、そしてスキンシップをしていくうちに、アーエルにリモネと同じの意味の「好き」が芽ばえてゆきます。一方リモネも、ただ「アーエルが好き」というだけで、先走った知識で都合のいい解釈をし、勝手に突っ走ってしまってる節が少しあります。「相手に意識させる」という事においては、告白した方が勝ちなんです（笑）リモネにそこまでの戦略があったかどうかは知りませんが（^^；）まだ性別が確定していない、シヴュラという立場での幼い恋、そんな物語を描いたつもりです。微妙にベクトル違っているこの二人の恋はまだ始まったばかりです。

■タイトルを見て気づいた方もいると思いますが、この本の内容はエンディングテーマの「祈りの詩」から連想して作ってあります。

今回のネームがほぼ完成したのは5月の終わりでした。最初からこの歌の歌詞に惚れていて、ちょうどリモネとアーエルの話がやっていたので、よし、これでいこうと。前回の本の時の設定は、WEB上で完璧に出来上がっていて、最初からラブラブでも良かったのですが、アーエルという人物の設定から考えると、最初からラブラブモードはおかしいかなと。元々前回とは全く違う展開にしようと思っていたので、それはちょうどよかったのかもしれない。

あと悔やむべきは、エッチの時も普通の服にしたかった、ということくらいでしょうか（笑）というのも今でこそなんとなく分かりますが、当時は服の構造が全く分からず、資料になるものも少なかったんで、どこがどうなってるか分からなきゃ脱がせられないじゃん！って（笑）こちらにも気付いた方がいると思いますが、服のデザインはメガミマガジンのピンナップから拝借しました（笑）

最後は文字のみで申し訳ないです（`▽`）；
少しでも何か感じられたり、楽しんで頂ければ幸いです。
それでは、機会がありましたらまたお会いしましょう（^^

7月某日 chisato

— いのりのうた —

発行日 : 2006/8/13
発行 : MISSING PARK
発行者 : chisato
印刷所 : 株式会社しまや出版
HP : <http://www1.marukotv.jp/~nkmp>
Mail : nkmp@blue.marukotv.jp
この本は個人の趣味による発行物で、
著作権元とは一切関係ありません。

MISSING PARK PRESENTS
SIMOUN FAN BOOK



2006 SUMMER